

歴史博物館 昔あそび

・毎月第1日曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居
を見ることができます。1日2回。
公演終了後にはカタヌキのおまけもあります。

各回が始まる前30分間(①13:00～ ②14:00～)に
昔のおもちゃで遊べる時間を設けています。
けん玉や丸とぼしで遊んでから紙芝居をお楽しみください。

場 所：歴史博物館 1階

時 間：①13:30～ ②14:30～ (各回30分程度)

・毎月第3日曜日 火打ち石体験 お手玉あそび

火打ち石と火打ち金を使った
火おこし体験です！
ろうそくに火をつけられるかな？
その他に、お手玉あそびもやっています。
お手玉のいろいろな技を磨いてみよう！

・毎月第4土曜日 紋切りあそび

・毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様ができあが
ります。できた紋様でオリジナルの暑中見舞いハガキを作
れます(7～8月限定)！折り紙の金魚つりあそびもやって
います。金魚以外の魚も…？

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：歴史博物館 1階 時 間：13:00～15:00

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。
※最高気温が35℃を超える場合は縮小開催いたします。

市制90周年を記念して 歴史年表を設置しました

7月2日(火)にアイリンクタウン展望施設にて考
古・歴史博物館が製作した歴史年表を設置し
ました。公開初日にはご来賓の皆さまをお招き
して除幕式を開催しました。

年表は高さ3m、全長約18mの長大なものです。
展望台から現在の市川を、施設内で市川の歴史を見
ることができますので、ご来場の際はぜひご鑑賞くださ
い。製作にあたり、多大なご寄付を頂戴しました嶋田
久仁夫様、内田茂様、ありがとうございました。



ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【駐車場】 一般車30台

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

お体の不自由な方等

【入館】 無料、補助犬同伴可

の車両 各館1台あり

車いす各館1台あり

大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の
利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



考古・歴史博物館だより

第71号
発行 令和6年7月

市川考古博物館

〒272-0837
市川市堀之内2-26-1
☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837
市川市堀之内2-27-1
☎ 047-373-6351

季節の展示「ちょっと怖い絵展」を開催中！

歴史博物館が所蔵する資料を季節にちな
んで展示する季節の展示「ちょっと怖い
絵展」を現在開催しています。

今回は、涼しさを求めたくなる夏にぴったりな少
し怖い？河童や狐といったメジャーな妖怪や、市
川市の昔話に出てくる怖い場所などを紹介しま
す。ちょっと不思議で不気味な体験をお楽しみく
ださい。

期 間：令和6年7月20日(土)～

令和6年9月1日(日)

場 所：歴史博物館1階 常設展示室



【当館利用者の皆様へのお願い】

- ・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- ・見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

いしかわの縄文貝塚(6) 縄文時代の装身具(その2)

縄文時代の貝塚からは、海水産の貝殻で作られた貝輪と呼ばれる腕飾りが出土することがあり、埋葬された縄文人の腕に装着された状態で出土することもある。貝輪には、イタボガキ・アカガイ・サトウガイ・サルボウガイなどのように、市川周辺の海域に生息する貝類の殻で作られるものがある一方、ベンケイガイやオオツツノハなどのように遠方の海に生息する貝類の殻から作られたものがある。前者の場合、貝殻の中央に孔をあける途中の未製品や破損品がともなうことから、縄文人たちが市川周辺で採取した貝類の殻を集落内で加工し、貝輪を製作していたことがわかる。

一般的に、市川市域で貝輪の未製品や破損品がまとまって出土することは稀であることから、多くは貝輪の素材が得られた時点で、その都度、作られることが多かったようであるが、昭和51(1976)年8月、曾谷貝塚D地点のSK08と名付けられた小竪穴(貯蔵穴)から、縄文時代後期初頭(約4000年前)に属するイタボガキの貝輪の未製品がまとまって出土し(写真参照)、研究者の注目を集めることになった。イタボガキは、本来的には潮下帯という干潟より深い場所に生息する貝類であることから、多量に採取されることは稀なことであった。おそらく、その希少性と成長すると不整

ではあるが、円形や楕円形に近い形状になり、貝輪に適していることが好まれたのであろう。

特筆すべきことは、この小竪穴(貯蔵穴)からイタボガキの未加工の貝殻26個体分が合わせ貝のように、左右揃った合弁の状態に復元することができ、左殻の貝輪未製品2点が右殻の未加工の貝殻と接合したことであり、多数のイタボガキが合わせ貝のように合弁の状態にて採取され、集落内に持ち込まれたことがわかった。貝輪の未製品には、①貝殻の穿孔時に破損したと考えられるもの、②穿孔が終了した段階と考えられるもの、③研磨の段階で破損したと考えられるものなどがあり、製作工程のいくつかの段階で破損し、廃棄されたようである。破損していない完全な貝輪の製品は1点も出土しなかった。

(つづく)
(考古博物館学芸員 領塚 正浩)

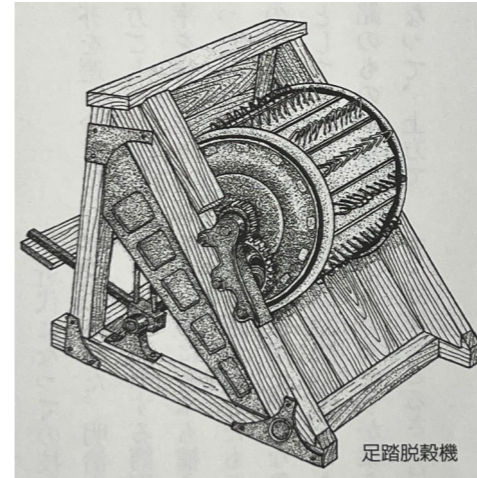


写真1 イタボガキ製貝輪未製品の出土状態 (SK08)



写真2 SK08出土のイタボガキ製の貝輪未製品PL2

いしかわの民具⑭ 足踏み脱穀機



【画像①】足踏み脱穀機



【画像②】アンラク式脱穀機



【画像③】明王式天狗号脱穀機

歴史博物館の収蔵資料の調査を進めていると、様々な発見がありました。今回はその中から『足踏み脱穀機』を紹介します。

足踏み脱穀機とはその名の通り足で踏んで動かす脱穀機で、明治時代末頃に登場しました。下にある足踏み装置によって中央のドラムを回転させ、刈り取った稲から籾(米)を取る道具です(画像①)。端的に脱穀の歴史を道具で並べると、こき箸(こき管)、千歯こき、そして足踏み脱穀機へと変わり、より高能率な脱穀が可能となりました(次は動力式脱穀機、やがてコンバインへ移行)。足踏み脱穀機は山口県や広島県で作られるようになり、その後全国へ普及していきます。正面には商品名や製作所などの情報が表示されています。それらを読んでいきましょう。

画像②：折畳分離自在／名預金牌／発明／元祖／登録商標／新案特許／農具界之権威／アンラク式大■号／売卸横須賀親農社■ (※「■」は判読不可の文字)

この資料は、(やや見づらいですが)焼印で商品の看板が記されています。焼印から神奈川県横須賀親農社のものをご購入したことがわかります。看板には「農具界の権威」とも書かれており、少し仰々しい感じもしますが、こういった文言で商品に箔をつけていたのでしょう。

画像③：特製実用新案登録優秀無比最新型明王式＜明王印＞天狗号東京尾久明王農機製作所

次の資料は、「明王式天狗号」という商品名で、現在の東京北区にある尾久で製作されたものだとわかります。注目したいのは商品の看板がブリキ製のホーロー看板へ変化している点です。

このように、民具はその用途以外にも、よく観察することで多くの情報がわかってきます。今回は紙幅の都合上サラリとしか取り上げられませんが、引き続き調査を進めていきます。

今回の調査を実施するにあたり、國學院大學観光まちづくり学部をはじめとした学生より多大なる協力を得ました。

※ 出典：『(絵引き)民具の事典【普及版】』、河出書房新社、2017年。
(歴史博物館学芸員 福島 千尋)